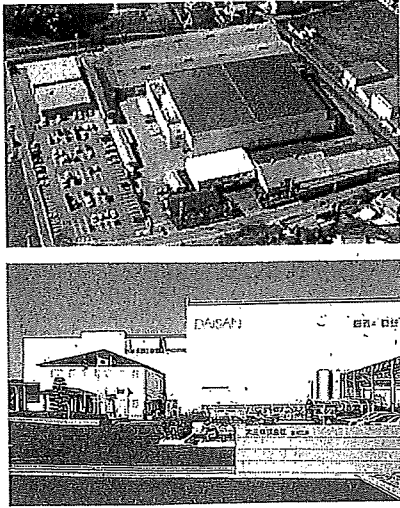


丸三産業と大三統合へ

12年3月までに まず原料共同調達

化粧綿など衛生用品製造の丸三産業(愛媛県大洲市、菊池公孝社長)と同業で白元(東京・台東)の子会社の大三(高知県香南市、上本清則社長)は2日、2012年3月までの経営統合を視野に入れた業務提携したと発表した。原料の綿花が高騰しており、統合で調達コストを削減。少子化で国内販売が伸び悩む中、海外事業も強化する。



丸三産業の大洲工場(愛媛県大洲市、写真上)と大三の本社工場(高知県香南市、同下)

経営統合を前提とした業務提携にこのほど基本合意、近く両社と白元は「業務提携及び経営統合推進委員会」を設置し、生産設備の相互利用などを検討する。

経営統合が実現しても新会社は白元グループには入らない方向だ。両社は化粧綿や医療用脱脂綿などを製造。丸三産業は化粧綿の生産量が国内首位。繊維製品の間原料である晒(さらし)

し綿では、国内最大級の月間750トの生産能力を持つ。大三も丸三産業と同じ衛生用品製造の国内大手。製造した商品の大半を親会社の白元が販売している。両社は今夏から

<p>丸三産業 設立は1948年10月。資本金2億9000万円。化粧綿、脱脂綿、不織布、生理用品などの製造・販売。大洲市など愛媛県内4カ所に生産拠点を持つ。2010年2月期の売上高は101億円。10年2月の従業員数は437人。</p>	<p>大三 設立は1965年3月。資本金は4800万円。脱脂綿、化粧綿、化粧品などの製造・販売。2000年に白元に株式譲渡し子会社に。高知県香南市に主力工場。10年3月期の売上高は82億円。10年4月の従業員数は115人。</p>
--	--

経営統合に向けた協議を進めていた。

05年に大三の工場が「ぼや」が起きて生産がストップした際、丸三産業が生産で協力したのをきっかけに両社は交流。現在、大三が製造した色付きの不織布を丸三産業が購入するなど協力関係にある。

丸三産業は大三の親会社である白元が持つ国内外の販路を活用することによって販売拡大を狙う。10年前からインドネシアに脱脂綿などの材料を輸出している大三は丸三と協力して中国、タイ、ベトナムなど海外向け販路の拡大を目指す。

のは、共通の製品原料である輸入綿花の高騰だ。両社は米国、オーストラリア、インドなどから綿花を輸入しているが、綿花の価格は異常気象による供給不足や中国を中心とした需要の増加、投機マネーの流入などで昨年に比べてほぼ2倍になっているという。

ジョン万次郎 生家を復元 土佐清水商議所など 幕末、日本人として初めてアメリカに渡り、日米友好の橋渡し役になったジョン万次郎(1827~98年)の出身地、高知県土佐清水市にこのほど、万次郎の生家が復元

丸三産業(大洲)業務提携

経営統合前提 大三(高知)と合意

綿を使った衛生用品など製造販売の丸三産業(大洲市)と、同業の大三(高知県香南市)は2日、経営統合を前提に、原料の共同購入などの業務提携に向けて基本合意したと発表しました。2年後を目標に経営統合を検討する。

丸三産業は資本金2億9千万円、従業員437人。衛生用品などの製造販売のほか、メーカーへ素材として提供する綿不織布を製造している。大三は大手日用品メーカー白元(東京)の100%子会社。資本金4800万円、従業員115人。マスクやめん棒、化粧品などの製造販売を手掛け、中国に生産拠点を持つ。

社による業務提携・経営統合推進委員会が、販売ルートの相互活用▽生産設備の相互利用▽原綿などの共同購入▽中国の拠点を生かした海外向け販売の拡大策などをまとめる。

丸三産業が4、5年前に大三へ素材を供給したのを機に、一部製品で互いに素材を融通するなど協力関係にある。8月ごろから両社トップが業務提携を話し合い、10月中旬に基本合意に達した。

丸三産業の菊池公孝社長は「力を出し合うことで営業・製造面でコストを下げ、海外への競争力が高まる。今回の業務提携が友好に進展するよう互いに頑張りたい」とコメント。大三の親会社の白元は「現時点では具体的な内容は決まっていないが、2社が手を結んで競争力をつけ、市場に挑みたい」としている。

(武田亮)

衛生用品

丸三産業・大三 経営統合へ

12年春メド まず製販で協業

【松山】衛生用品製造の丸三産業（愛媛県大洲市、菊池公孝社長）と同業で白元（東京・台東区）の子会社の大三元（高知県香南市、上本清則社長）は業務提携した。両社は生産・販売両面で協力できる部分から協業を始め、2012年3月までをメドに経営統合する方針。経営統合が実現しても新会社は白元グループには入らない方向だ。

1日付で経営統合を前提とした業務提携に基本合意した。近く両社と白元で構成する「業務提携及び経営統合推進委員会」を設置、実務的な協議に入る。委員会では販路の相互活用や、原材料の共同調達、生産設備の相互利用などを検討する。

丸三産業は化粧綿生産量が国内首位。最終製品のほか、繊維製品の中間原料である晒（さらし）綿では国内最大級の月間750トンの生産能力を持つ。大三も丸三産業と同じ衛

生用品製造の国内大手。製造した商品の大半を、親会社の白元が販売している。業務提携の背景には、両社共通の製品原料である輸入綿花の高騰がある。両社は米国、オーストラリア、インドなどから綿花を輸入している

が、綿花価格は異常気象による供給不足に加えて、投機マネー流入で過去3月には1870年以來の最高値を記録していた。10